

人生の最終段階の医療と介護の意思決定支援（大切な人の看取り・もしバナゲーム）ワークシート集計

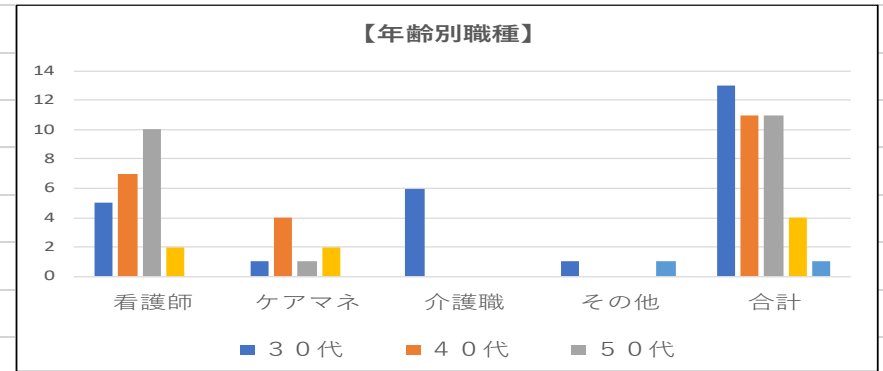
日時：R元年8月20日（火）17:00～18:45 会場：長浜市立湖北病院セミナー室

参加数：41人（+事務局3・講師1） 回答数：40人（回答率98%）

●職種別年齢層

職種	30代	40代	50代	60以上	未記入	合計
看護師	5	7	10	2		24
ケアマネ	1	4	1	2		8
介護職	6					6
その他	1				1	2
合計	13	11	11	4	1	40

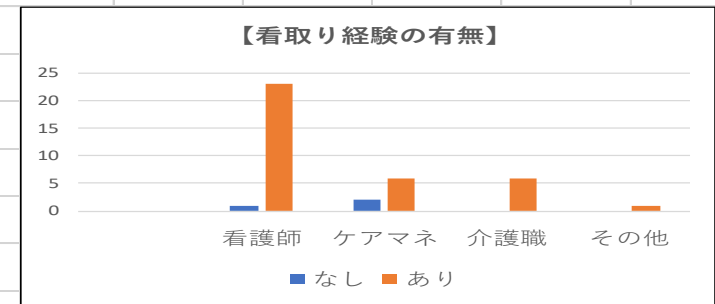
・若い年代の参加が多かった



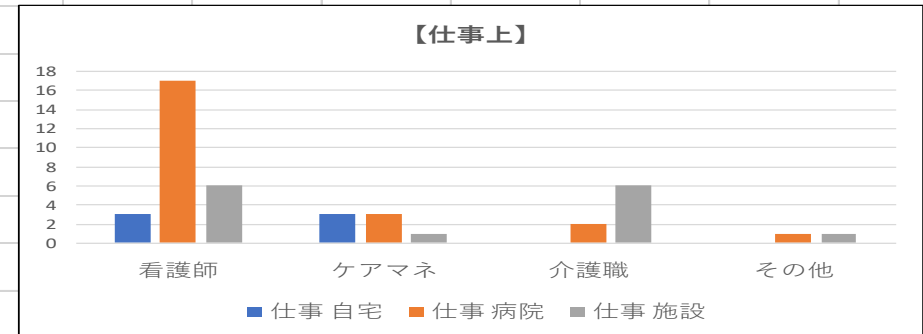
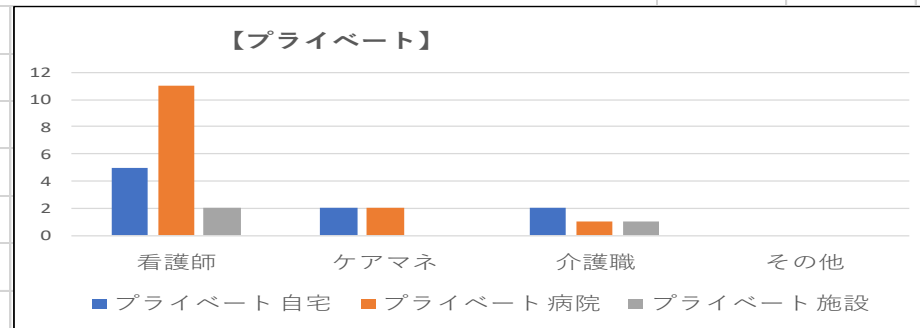
●職種別看取り経験の有無と内訳

職種	なし	あり	プライベート			仕事		
			自宅	病院	施設	自宅	病院	施設
看護師	1	23	5	11	2	3	17	6
ケアマネ	2	6	2	2	0	3	3	1
介護職	0	6	2	1	1	0	2	6
その他		1	0	0	0	0	1	1

・看取り経験は看護職が多いが、参加された介護職もすべて看取り経験があった



●職種別看取り場所の内訳



・看取り場所は突出して病院が多い

●回復が見込めない人生の最終段階を想定した時のあなたの気持ちと、もしバナゲーム後の気持ち（看護師 24 人）

- ・ 家族やペットと一緒に穏やかに。
- ・ 身内や気のおけない人に囲まれて。
- ・ 自分の時間、家族との時間を大切に。
- ・ 訪問看護にお世話になって。
- ・ できるだけ家族と一緒に。
- ・ 病気にしぼられず家族、友人と笑顔で。
- ・ 普通の生活がしたい。
- ・ 子供たちを大切に。
- ・ できるなら自宅で静かに。
- ・ 心落ち着く人達と一緒に。
- ・ 自分の趣味など好きな事をしていたい。
- ・ サービスも使いながら家族と笑顔で。
- ・ できるだけ医療に依存したくない。
- ・ 必要のない医療は受けたくない。
- ・ 負担のかかる治療はしたくない。
- ・ 食べたい物を食べたい。食べられなくなったらそのまま見守って欲しい。
- ・ 点滴などの医療行為は最低限で。
- ・ 痛みがないように。
- ・ 苦痛がないのなら自宅で過ごしたい。
- ・ 痛みや苦しみがコントロールできるよう緩和ケアを受け、自宅で好きな様に過ごしたい。
- ・ 痛いだけは嫌。
- ・ 寝込んでから最短時間で死ねるようにしてほしい。
- ・ 緩和ケアを受けたい。
- ・ 家族のことを大切にしたい。

- ・ 意思を貫くために必要なものが具体的に明確になった。
- ・ 日頃から身近な人（周囲の人に）に伝えておく必要がある。
- ・ 日頃から家族とコミュニケーションをとっていくことが大切。
- ・ 自分でできる身辺整理なども、自分がしっかりしているうちにできたらなと思った。
- ・ 自分の望み、想いが整理できた。話し合う機会を設け、文書で残しておく。
- ・ 望みの変化はないことが確認できた。
- ・ 話し合う機会を設ける必要、文章で残す必要性を感じた。
- ・ 思いの行き違いの解消をして、自分の思いを伝えておきたい。
- ・ 家族も本人も同じ方向に向かって進んでいけるとよい。
- ・ 看取り、死について日頃の自分より考えたり、想像することができた。
- ・ 普段から遠慮なく話せる環境、家族との関係性作りが大切。
- ・ ぼんやりと思っていたことがカードを選ぶことで、はっきりと思えるように感じた。
- ・ ぼんやり漠然と考えていたが具体的に考えられた。
- ・ 自分の事や残された家族の事を具体的に考えたいと思った。
- ・ 優先順位は違っても同じような想いをみんな持っていると感じた。
- ・ 家族のことを心配することが優先であったが、自分の最後は自分で決めて医療関係者や信頼できる人に話しておきたい。
- ・ 自分の人生なので自分中心に考えたいが、周囲の人の事も大切に思いたい。
- ・ 自分の想いは伝えられるうちに伝えておくということを改めて感じた。
- ・ 自分から家族のことを考えるようになった。
- ・ 自分のことは自分で決める。
- ・ 思いをしっかり伝える。
- ・ 家族が自分の終末期を理解して私の死を覚悟してもらえること、送ってもら

- ・ 家族の負担になりたくない。
- ・ 迷惑をかけたくない。
- ・ 負担になるのならば、施設や病院へ。
- ・ 自宅が無理ならホスピスへ。
- ・ 家族が困らないような準備がしたい。
- ・ 子供になにか残したい。
- ・ お世話になった人や家族に「ありがとう」を伝えたい。
- ・ お世話になったこと、子の存在に対し「ありがとう」と伝えたい。
- ・ 嫌なことはしたくない。
- ・ 動けるうちに行きたいところに行く。
- ・ 身の回りの整理。
- ・ 旅行がしたい。
- ・ やり残した事をしてみたい。
- ・ 意思表示できるうちに伝えたい。
- ・ 物やお金を整理しておく。
- ・ トイレだけは行けるようにしたい。

えることが一番。自然に看取ってほしい。

- ・ 周囲と自分の想いが合っていない時は、その意味も伝えるということもしていく。また、周囲や身近な人の想いも知る努力が必要。
- ・ 自分自身大切にしている事が何のかを知る機会をたくさん持つことが必要。
- ・ 自分の想いを大切に、周囲の人に理解してもらいたい。そして、自分の周りに大切な人がいる。これらができたらいいのかな。
- ・ 皆さんの話を聞いてそれぞれの思いがあって、最期をむかえる準備をしたいと強く思った。自分とは違う意見を聞いて、いろんな思いがある中で私は私の思いは、変わらない。

●回復が見込めない人生の最終段階を想定した時のあなたの気持ちと、もしバナゲーム後の気持ち（介護職8人、その他も含む）

- ・ 家族との時間を大切にしたい。
- ・ 家族と一緒に日常を過ごしたい。
- ・ 家族に迷惑がかからないように。
- ・ 家族、友人と過ごす時間を大切にしたい。
- ・ 友人・家族と会って終わりたい。
- ・ 家族と一緒に過ごす時間を大切にしたい。
- ・ 静かに過ごしたい。
- ・ 家で最期をむかえたい。
- ・ 気持ちは家で最期をむかえたいが、自分や家族の中に死に対しての取り組

・ 自分の最期を考えることで今を考え直せた気がする。今、家族とどこまで話せているか、私の希望を家族がどこまで聞いてくれるか少し不安も感じた。やり残しがないように、毎日を大切にすごさなければいけない。←こういうことを看取り期の患者が抱えている気持ちなのだなあとそれに気づくことができ、日々のケアに活かしたい。

- ・ 自分は死という事に対して、あまりに消極的で諦めが強いが、もっと周囲に頼ったりしても良いのかと思った。
- ・ 緩和ケアを希望するのに、最低限の医療者は傍にいてもらいたいと感じた。不安も軽減される。

- ・みができる環境がないため、現実には施設または病院かなと思う。
- ・できれば自宅ですごしたいが、子供に負担がかかるようなら病院でもいい
- ・住み慣れた自宅がいいが、家族の負担になるなら病院。
- ・家族が困らないように身辺整理をしたい。
- ・医療やケアについては安楽であればそれだけでいい。
- ・病院で緩和ケア
- ・点滴などの延命治療はせず、食事も食べたいものを食べたいときに。
- ・痛みのないように。
- ・延命治療はしてほしくない。自然に。
- ・苦痛は軽減してほしい。
- ・死を受け止め取り乱さず穏やかに受け入れたい。
- ・事実をしっかり説明され、やり残したことのないようにしたい。

- ・人に話したことで最期のことをもっと考えるようになった。
- ・どの方も自分が死ぬ時に、どうありたいかといった事を話していない。
- ・自分の最期の過ごし方を家族に伝えておくことが大事。
- ・大切な人と最期は過ごしたいという気持ちだが、他の人も大切にされていることなのだなと感じた。
- ・家族の負担の軽減や普段からの死生観について話し合いが大切だと思った。

●回復が見込めない人生の最終段階を想定した時のあなたの気持ちと、もしバナゲーム後の気持ち（ケアマネジャー8人）

- ・家で夫や子供、孫たちの顔を見せてもらいながら療養したい。医療体制を整え、本人だけでなく家族等の心の支えになっていただきたい。
- ・家族、友人、趣味を大切に。家が最期だとありがたい。
- ・苦痛だけ取ってほしい。
- ・病気に左右されず今まで通りの生活をしながら楽しみたい。
- ・痛みや苦しみが無い治療だけ受けたい。
- ・頼れる医療者に相談できる環境でいたい。
- ・家族や友人との思いで写真、大好きな音楽に囲まれ、自宅の自分の部屋ですごしたい。
- ・保清の介護、痛みの緩和ケアを受け、傍に誰かいてほしい。
- ・自宅で過ごし、子供達との時間を持ちたい。
- ・痛みのコントロールを受けたい。
- ・友達に会いたい。

- ・看取り経験や身内のがん治療、高齢の親がいる事等から、本を読んだり、話はしているが、自分達の事として気軽に普段の会話の中で話し合おうと思う。
- ・自分の死、生き方というものを考えるきっかけになった。
- ・大切にしたいもの（こと）、優先したいもの（こと）が整理できた。
- ・普段から思っていることを口に出すことで、気持ちはより意識できる。
- ・自分からどう日頃から会話を重ねていけばいいのか？改めて考えさせられました。
- ・気持ちとしては変わらないが、実際に人に説明を行うことでより自分の思いを深く考えました。
- ・タブー感があって話せていないがこういう形で家族に話せるといい。自分の意志をかいておく（家族も揺らぐ）
- ・具体的な優先順位を考えたことがなかったが、今回、改めて自分の気持ちを考えるきっかけになった。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の死んだ後の整理をしたい。 ・自分のペースで、家で過ごしたい。 ・痛みは取ってほしい。 ・おいしいものを食べたい。 ・自分の想いを聴いてくれる人に傍に居て欲しい。 ・できるだけ普段通りの生活を送りたい。緩和ケアだけはしてもらい、特別なことをして過ごすことは考えていない。 ・緩和ケアのみで延命治療はなし。でも怖い。 ・娘に迷惑はかけたくないが最期は傍にいてほしい。 ・私の気持ちをわかってくれる先生や看護師さんとチームを組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・死に対してあきらめの思いがあった。自分の人生、思いを周囲に頼ってもいいのかと思った。 ・自分の思いを受け止めてもらったり、心の拠り所となる人を人生の中で見つけられるとよいと思った。 ・自分の気持ちはわかるが、家族の気持ちはわかっていない。話をする事は大切だと改めて感じた。 ・自分の思いを伝えなければ、相手の気持ちもわからない。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

もしバナゲームを通して、自身の大切な事や価値観を再認識した中で、専門職として利用者さんに何ができるか？

1 G	<ul style="list-style-type: none"> ・元気だった時の想いを家族から情報を聞く。その方を知ろうとする態度が大切 ・Dr は年齢によって「～才だから何もしない」本人家族はどう思っているのか？そこが聞けるのが私たちにできることかな ・看取り期になると本人より家族の意見が割れてもめ事になる。其々の専門職の力を借り、ケアの内容だけにとらわれず、チームケアをすることが大切。 ・多職種連携を大切にしていこう。ご家族には愚痴聞きに徹する。利用者さんの昔の懐かしい思い出などユーモアを含めて聞くようにしている。 (回顧療法) ・在宅で看取りを行った。家族が受けたい看取りを実現したいと思っている。家族の思いを知って、受け止めて個別性のあるケアを行いたい
2 G	<ul style="list-style-type: none"> ・どう生きたいか？どう最期を迎えたいか？希望を聞く。 ・ターミナルケアに入る前にエンディングノートなどを活用して早い段階で想いを聞いておきたい。(その人らしさ、カンファレンスなど) ・里帰り、仏壇参り。 ・ニーズの変化に対応してケアしていく。 ・看取りのマニュアルに沿って説明している。看取りとはどうなっていくのか。 ・その時の状態を家人に話して理解を深めてもらっている。

3 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、本人の思い（思い出なども）話を聞く。 ・ 自宅で最期を迎える方は、サービスがどれくらい受けられるか。家族の休みも必要。 ・ 家では厳しい提案をして伝えていく。 ・ 家では無理と家族は言うが、本人は家に帰りたい思い。一日でも外出でも家に帰れるように調整できないか。 ・ 家族は病院だと安心と思われる方が多い。家に帰られた時のサポートをしていけたら。
4 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の思いを聞いて、希望に答えられるように（苦痛など） ・ 医師に代弁できる。 ・ IC（インフォームド・コンセント）の調整、後のフォロー ・ 家族の思いは聞き取っているが、本人の意思の確認できる人でも聞くことをしていない。 <p>本人の思いを NS 等スタッフが聞き取った時家族にフィードバックすることも重要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族から本人に言わないでと言われることも多いがどうサポートすればよいか。 ・ 超高齢者の医療ケアに関わる私たちは、その方の急変が起こる可能性を感じ終末をどのように思っておられるのか話を聞き、またそのリスクについても話しておくことが大事。
5 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係を作る。本人からの本意を聞ける環境を作る。 ・ 安楽な緩和ケアを行う。 ・ 家族に対するアドバイスを行う。医療現場では家族は何をしていいかがわからない。傍にいてだけで良いことを伝える。 ・ 食べ物の好き嫌い、好きな音楽、絵など、ご家族と密に連絡を取り、来所してもらえ環境を作る。 ・ 自分の意志が聞けて、家族との関わり、その人の人生を振り返りながらケアを考える。
6 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療者は信頼関係を築く。よく話を聞く。コミュニケーションを多くとる。 ・ 知識のない方には情報の提供をする。 ・ 思いを聞いて家族に伝えたり調整したりする。 ・ 代理決定者がいない人は、思いが伝えられるうちによく聞いておく。 ・ 選択肢の確認 ・ 治療のメリット、デメリットの提示 ・ チームケア

7 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族が高齢者の看取りが理解できず、真実を知った時に死に対しての考えが揺らいでいく。これに対して寄り添うことが難しいが、話を聞き寄り添う努力をしている。 ・ 看取りを選択された方が多く、ガイドラインに基づいて点滴を希望されるか、できなくなったときどうしていくか等、その都度どうしていくかを聞きながら家族や本人と向き合う。 <p>個人個人の考え方も違うので意志を確認しながら関わるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の話が家族や本人がどこまで理解されているのかを確認した上で、その都度選択肢を提供しながら一つ一つ丁寧な対応を心がけ、理解を深めてもらうようにしている。(高齢者は理解されていないことが多い)
8 G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何がしたいか希望を聞く。家族写真を撮る。 ・ どういう人だったかと知る。好きなこと、ものを聞く。できることを実践する。 ・ どういう風にすごしていたか家族と話す。振り返る。聞くことで今までの関係を思い出してもらう。 ・ 気持ちを時間をかけて聞きたい。しゃべれない分代弁者になって家族に伝える。きっかけを作る。 ・ 元気なうちから上記のようなかわりを持って療養してもらう。早くから取り組む。 ・ 寄り添う。思いを聞く。医療について説明し安心してもらう。家族の負担を聞く。 ・ 職種が異なる立場として家族の思いを聞いて伝えていく。在宅で可能であることを伝えて行く。 ・ 悔いなく後悔しないような支援ができるかどうか。さわやかに見送れるような支援。

全体意見

●講義について

- ・ 駆け足での講義が少し残念でした。
- ・ 自分自身の事についても考えることが出来たことで患者様にも共通する面があることに気づきました。
- ・ 自分や大切な人の看取りについて考える事ができた。医療者として自分がどうしたらよいか考えられた。
- ・ 看取りについて考えさせられました。ゾウさんの絵本は最期という事を話にしてあるのはすごいなと思いました (ゾウさんの想いを尊重してあげたネズミ)
- ・ 短い時間で分かりやすい講義だった。
- ・ とても心に響きました。普段は病院で患者様を看取っていてもつい、仕事として片づけてしまいます。今回大切な人の看取りというテーマでまた違う発見がありました。
- ・ このように自分の死について考える機会を与えてくださりとても勉強になりました。

- ・考える場が得られありがとうございました。参考にさせていただきます。
- ・分かり易くてよかった。
- ・とても分かりやすく話してくださり、今後の自身のためにとっても参考になりました。本も紹介していただき読ませて頂きたいと思いました。
- ・死に対してどう考えるか、在宅看取りの在り方など改めて考えていきたいと感じました。素晴らしい在宅支援に関わっておられる方々や死に直面する周囲の人の動揺など日々感じることもあるので知識をより深めて関わる事が出来るようにしたいと感じた。ありがとうございました。
- ・人の気持ちはその都度変わるので日頃から何度も話し合っていく。本音が言える間柄である家族。
- ・患者さんに、元気である間に自分の最期を考えてもらい家族と話し合ってくださいと伝えたいと思う。
- ・短時間ではありましたが、講義内容はとても興味深い内容だったのでもっとお聞きしたいと思いました。
- ・死について語る事がタブー視されている状態についてはよく感じるし、死の捉え方が人それぞれ違うという事もよく感じます。その中で患者さんの状態について、わからないところや不安なことなど、話を聞いたり、説明を行っていく事が重要だと感じました。
- ・とても分かりやすく緊張しすぎず意見を伝えられて良かったです。いろいろな方の言葉を聞き、考え方の参考になりました。
- ・看取りについて自分の考えを整理することが出来た。医療者とそうでない方で知識・理解の差があるので十分に話せるとよいと思う。
- ・普段親が先に亡くなるものだと思って、ちょっと死というものの距離が遠かったけど自分の事として考えるきっかけになった。
- ・最後という時間、私はどうしたいのか？どう過ごしたいのか？じっくり考えることが出来た。
- ・とても分かりやすかった。紹介されていた本を読んでみようと思った。
- ・死に対する考え方や1日1日を精一杯生きることが自分の人生観の一部として非常に影響を受けた講義でした。ありがとうございました。
- ・講師の方々のお話がとても分かりやすかったです。興味のある内容で理解を深めることが出来ました。ありがとうございました。
- ・多職種で話し合いができ参考になることが多くよかった。本人の思い、家族の思いの調整は難しいとの意見が多かった。家に帰ったら家族で話し合いたい。
- ・日々流されている中で、立ち止まって考える機会を作って頂いたと思います。
- ・データーを見ることで、日本・滋賀の実態を知れたこと。自分と大切な人では視点が違ってどうしたいかが変わるし考えて話し合っておく必要性を感じた。
- ・大変分かりやすい講義でした。終末期をどのように過ごすかを利用者さんに考えてもらえるように話せるといいと思った。
- ・ユーモアを大切にしたコミュニケーションを取っていく事の大切さについて心に残りました。
- ・病院で亡くなるが多くなったため人の死の経過を体験する事が無くなり、死に対するイメージが出来ずに受け入れられなくなっている事が分かった。
- ・短い時間の中で濃縮されていてすごくよかった。近くで講師の方と話できるのも良かった。
- ・分かりやすかったです。
- ・いろいろな方の言葉を紹介していただき、とても考えさせられました。家族と話し合う機会にしたいと思います。

●「もしバナゲーム」について

- ・具体的に捉えることが出来た。他の方への意見を聴く貴重な機会となった。
- ・いろいろな職種によって考え方は違うものだという事が分かり有意義な時間が過ごせてよかったです。
- ・いろいろな方の意見が聞けてよかった。看取りについて考える事ができた。
- ・話し合いにくい自分の死という事についてみんなで話し合ったり、想いを伝えられるのがとても良いと思いました。家でやってみたいです。
- ・カードゲームを通して行ったことでシビアな話題であっても話しやすかった。
- ・こんなゲームは初めてで多職種と話し合えてよかったです。私は病院 NS ですが、在宅で看取りを考えていたのに最後の最後に病院で看取りとられた方がおられます。しかし、その時は、家族、在宅で関わっていたケアマネ、介護職の方にねぎらいの言葉をかけています。
- ・身近に死を感じた人とそうでない人の違いを感じた。其々の考え方は会っても、自分の意思表示が自分の意思表示ができる環境を作る事、作れることが大切であろうと思えた。
- ・無理なく、スムーズに意見交換できました。
- ・楽しかった。
- ・他の人の意見が聞けて、残された人が苦しまないようにしていく事も大事
- ・グループの皆さんの話が聞けてよかったです。日頃から生活の中での家族との話し合い、自身の中での考え方を振り返ったり、見つめ直したりすることも大切だと思った。
- ・もしも自分が…と時々考えることもあるのですが実際にグループワークで自分の想いを声に出して話すことはなかったのよかったですと思います。
- ・何が一番なのか優先順位は人それぞれである。
- ・みんなの考え方が色々あって勉強になった。
- ・現場でも実際に行ってみたいと思いました。日常の中でもツールとして使用してもたい。
- ・職業的な事もあり、延命を希望するかどうかや、家族等話を聞いてくれる相手にいて欲しい等共通することが多かった。医療や介護の現場や臨死期の状態について等詳しくない患者や一般の人がどう感じるかどんなことを思うのか、何を大切にしたいと思うのか等、知りたいと思いました。
- ・気楽に人生の最後について話し合えて楽しかったです。
- ・一般の方もしておられると聞き、とても良い機会だと思った。
- ・他者の人生の最終段階に対する思いは様々、考え方はみな違い、一人ひとりの大切にすることは違う。だからこそ難しいのではないかな？自分に気持ちが優先されるばかりではないのでは！
- ・自分の事として考えるきっかけになると思う。患者の事を考えるきっかけになる。
- ・どれほどのカードも外せない言葉だと思う。
- ・同じようなカードに思えたが、よく考えるとやっぱり大切な内容が違う気がする。自分の看取りについて考える良いきっかけになった。
- ・一人ひとり大事にしている部分や思いについて考えられた。一人ひとり違う感情、想いを抱いているようにターミナルケアでは、タイムリーに一人一人の思

いに寄り添う必要がある。

- ・死、最期について自分が気づいていない部分について考えられる良い研修でした。ゲームが単純で理解しやすいのも良いですね。
- ・ゲームで話し合うと話しやすかった。
- ・自分とグループの中での死に対して考え方なども知ることが出来る。家族とも話してみたい。
- ・気楽にできる考えさせられるゲームです。文章の中で一般の方ではわからないかなと思うような内容があったのですが、普段はどうでしょうか。
- ・ゲームという形だったので見つめ直すこともできたけど前向きに考えるきっかけができた。
- ・普段看取りや患者さんの死を身近にない方たちはゲームをすることで意識ができると思いました。
- ・いろいろな意見が聞けて良かったです。
- ・中々話すきっかけがなかったのですがとても楽しかったです。死というマイナスのイメージでなく「自分がどう生きたいか」を自分も考え、大切な人に考えてもらえる機会を作りたいと思いました。
- ・他の人の選んだカードを見て人それぞれ優先順位が違う事が分かった。だから、その人らしく死を迎えて頂くには個別にその人の想いを確認する必要があると思った。
- ・他の価値観を聞くことで、自分の考えと全く違う意見もあり勉強になりました。
- ・家や友人としてみる機会を持ちたいと思った。訪問時に担当の方の気持ちを知るために使えないかと思った。
- ・自分自身の死に対する考え方を確認できた。グループワーク後の発表で色々と考えさせられました。
- ・看取りについて話すとなると何から話してよいか分からなかったがこういったカードがあると深く話ができ良いと思いました。



(文責) 長浜米原地域医療支援センター